

農山漁村地域整備計画における事後評価

【計画の概要】

計画の名称	小笠原諸島における外来樹木排除による野生生物共生林整備計画（その2）
計画策定主体	東京都
対象市町村	小笠原村
計画の期間	平成28年度～令和2年度（5年間）
計画の目標	世界遺産となった小笠原諸島独自の島しょ生態系を脅かす、アカギやモクマオウ、ギンネム、キバンジロウ等の侵略的外来樹木を排除し、小笠原固有の野生生物と共生できる森林・生態系の回復を目指す。
定量的指標	対象林において外来樹木が優占する樹林を減らして在来林化することにより、アカガシラカラスバトやオガサワラオオコウモリなど固有生物の生息数の安定・増加につながる。アカガシラカラスバトの推定生息数 220～450羽（平成25年）を維持・増加。都有地での外来樹木駆除事業面積35ha。

【評価】

交付対象事業の進捗状況	小笠原村父島において、侵略的外来樹木のアカギやモクマオウ等を延べ16.8ha排除した。
事業効果の発現状況	侵略的外来樹木のアカギやモクマオウ等を排除することにより、小笠原固有の野生生物と共生できる森林・生態系の回復ができています。
成果目標の目標値の実現状況	アカガシラカラスバトの非繁殖期における目撃個体数が600から900羽程度となった。
今後の方針	環境省、林野庁、小笠原村等の関係機関と連携しながら、アカギやモクマオウに加え、ギンネムやキバンジロウ等の侵略的外来樹木の排除を進めていくとともに、これまで排除を実施した地域においても適切に保全していく。